指導資料　外国語（英語）第80号

鹿児島県総合教育センター
平成27年10月発行

対象校種　幼稚園　小学校　中学校　高等学校　特別支援学校

コミュニケーションにつながる文法指導

学習指導要領において，文法はコミュニケーションを支えるものとして指導することが示されている。そこで，コミュニケーションに必要な文法指導について，使用場面を意識した導入や活動等の工夫を具体的に紹介する。

１　コミュニケーションを支える文法指導の必要性

高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編によると，文法について，以下のことに配慮することが示されている。

○　文法は，コミュニケーションを支えるものである。
○　文法指導は，言語活動と効果的に関連付ける。
○　文法事項については，用語や用法の区別などの指導が中心にならないよう配慮し，実際の場面で活用できるように指導する。

田中[*1)](2014)は，「文法は，単なるルールではなく，人と人とがメッセージのやりとりをするコミュニケーションにおいて，情報を正しく，そして効率よく相手に伝えるための重要な役割を担っている。」と述べている。その例を，現在完了形と関係代名詞を用いて，次のように挙げている。

＜現在完了形＞

現在完了形は，過去のある時点から現在まで，その状態がずっと続いていることを伝えることができる。

A: Where are you going this summer?
B: I'm going to Amami to see my sister. She has lived there for over ten years.

＜関係代名詞＞

関係代名詞は，補足説明を加えることで情報を分かりやすく，また１文に凝縮して効率よく伝えることができる。

A: This is a novel which a comedian wrote. I'm very impressed by it.
B: Really? I want to read it!

コミュニケーションを支えるための文法を指導するには，生徒がそれらの文法を身に付けて，どのようなコミュニケーションができるようになるか考えながら，教材研究を進める必要がある。そのために，まずは，教師が文法事項の具体的な使用場面を想定することが大切である。

２　言語の使用場面の例

文法を指導する際，生徒にとって身近で自然な場面を設定することで，興味をもたせることが大切である。

高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編では，言語の使用場面の例は以下のように示されている。

○　特有の表現がよく使われる場面

買い物，旅行，食事，手紙やメールでのやりとりなど

○　生徒の身近な暮らしや社会での暮らしにかかわる場面

家庭での生活，地域での活動，学校での学習や活動など

○　多様な手段を通じて情報などを得る場面

本や新聞などを読むこと，テレビや映画などを観ること，インターネットなどを活用し情報を得ることなど

これらの例を参考に，実際の使用場面で活用できるような工夫をする必要がある。

３　コミュニケーションにつながる文法指導の実際

ここでは，高等学校で新たに指導する文法事項の一つである「仮定法過去」を例に，指導する際の工夫について，①～③の内容に留意して学習の展開例を示す。①導入では，生徒にとってできるだけ身近で具体的な場面を設定し，生徒に関心をもたせることができるようにする。②表現形式や意味について理解させる際は，必要に応じて日本語で簡潔に説明を加えてもよい。③活動の場面では，ワークシートを活用して，英語でやりとりをする中で，実際のコミュニケーションにつながるような活動を行う。その際，生徒の実態に合わせて，既習の語彙や表現を使う配慮も必要である。

(1) 導入「文法の説明」

学習の導入場面で，例えば，「友人が，今日予定していた高千穂登山をずっと楽しみにしていたが，大雨で中止になった。晴れていたら，登山ができるのだが。」と，残念な気持ちを表す具体的な場面を設定する。天候を気にする典型的な行事（体育祭や遠足等）は，生徒にとっても，生活とのつながりを意識できる身近な場面である。そこで，次に，教師が以下のように，友人からの電話の内容を生徒に口頭で伝える。

This morning, a friend of mine called me. She told me she was planning to climb Mt.Takachiho. But it has been raining heavily since yesterday, so she cannot climb the mountain today. I know she likes climbing the mountain very much, so I imagine she is so sad. **If it was fine, she would climb the mountain.**

さらに，生徒と英語でのやりとりを通して，仮定法過去についての理解を促していく。

T ： What was she planning today, S1?
S1: She was planning to climb Mt.Takachiho.
T ： Yes. <u>Can she climb it today</u>, S2? **（仮定法過去を導く質問）**
S2: No, she can't.

T : Why do you think so?
S2: Because it has been raining heavily since yesterday. It is dangerous for her to climb the mountain in such bad weather.
T : That's right. So, **if it was fine, she would climb the mountain.**

T:教師，S:生徒（以下同じ）

このやりとりの後，ゴシック部分を板書し，クラス全体で数回繰り返して言わせる。その際，既習事項である，単純な条件を表す「直説法」の文を板書例のように提示し，違いを比べさせることで，生徒にとっては，新しい文法事項を理解するための手掛かりとなる。そのため，新規事項の定着を図りやすくすることができる。

＜板書例＞

① 「直説法」･･･単純な条件を表す
If it <u>is</u> fine, they <u>will</u> climb the mountain.
(晴れたら，登山をします。)
② 「仮定法過去」･･･現時点における実現しそうにない願望を表す
If it <u>was</u> fine, they <u>would</u> climb the mountain.
(晴れたら，登山をするのだが。)

板書事項の説明は，以下のような内容で，できるだけ簡潔に日本語で行う。

仮定法過去は，現時点における実現しそうにない願望や，現在の事実に反することを述べるときに使われる。過去形を用いるのは，現実との距離感を表すためである。助動詞も非現実性を感じさせるために，will，can，mayでなく，過去形のwould，could，might を用いる。

(2) 展開前半「練習」

一層の理解と定着を図るために，「仮定法過去」のポイントとなる部分を空所にしたワークシート１を用いる。

＜ワークシート１＞

Please fill in the blanks.
① もし私があなたなら，そんなことを彼女に言わないよ。
If I (　) you, I (　) not say such a thing to her.
② もし私が鳥であれば，あなたのところに飛んで行けるのだが。
If I (　) a bird, I (　) fly to you.
③ 体調が悪くなければ，彼女はパーティに来ることができるのだが。
If she (　) not sick, she (　) come to the party.
④ 忙しくなければ，彼はあなたを駅に車で送ることができるのだが。
If he (　) not busy, he (　) drive you to the station.

空所を確認後，クラス全体や各グループで，数回繰り返して練習させ，内容と形式の定着を図る。主語等を変えるなどして，アレンジを加えて練習させれば，指導は更に効果的なものになる。

(3) 展開後半「活動」

上記の練習により，生徒に内容と形式の定着を図った後，身近な日常生活を想定し，「実現しそうにない願望」を表現する活動を行う。この活動では，ワークシート２を準備し，まず，各自で取り組ませる。その後に，実際のコミュニケーションのように，ペアでＡとＢを交互に練習させる。教師は，机間指導を行い，生徒の学習の定着状況を把握し，必要に応じて個別に適切な指導を行う。

＜ワークシート２＞

1．A：If you had a lot of money, what would you do?
　B：If I had a lot of money, I _____.
2．A：If you were a principal, what would you do?
　B：If I were a principal, I _____.

ペアワークの後，クラス全体で，できるだけワークシートを使わずに発表させる。ペアとなった生徒が言ったＢの部分のみを発表させてもよい。その際，主語をIからShe又はHeに変えねばならないことを生徒に気付かせることも大切である。次に，教師がＡとなり，英語でやりとりをしながら以下のように発表させる。

T：If you had a lot of money, what would you do?
S1：If I had a lot of money, I would travel around the world.
T：Nice! Do you have any other idea, S2?
S2：Yes. If I had a lot of money, I would spend it for people in need.
T：Why do you think so?
S2：Because a lot of disasters have happened not only in Japan but also in a lot of countries these days. Many people can't live their own houses even now.
T：Great! It's good for us to share your idea. Thank you! Well, I will give you next question. If you were a principal, what would you do?
S3：If I was a principal, I would change our school uniform!
T：Why do you think so?
S3：Because I think it's out of date. It has not been changed since our school was founded!
T：I see, but I think it shows your school's long history, so it shouldn't be changed. Do you have any other idea, S4?
S4：Yes. If I was a principal, I would give less our homework.
T：What a surprise! You are so busy that you can't have time to do homework, aren't you?
S4：Yes, it's hard for us to find time to do a lot of things.

もちろん，教師と生徒のやりとりだけではなく，ＡとＢのどちらも生徒が行い，生徒同士で発表させてもよい。

教科書等の教材の文章を用いて，上記のような指導も考えられるが，その際，文章中には，複数の文法事項が使われていることが多いため，ポイントとなる文法事項に焦点を当て，指導することが大切である。文章の内容を理解した後に行えば，その文法がどのような状況で使われるのか，生徒にとって，理解が深まるというよさがある。

このように，生徒に具体的な使用場面で考えさせたり，ワークシート等を活用しながら，考えたことを発表させたりすることによって，生徒が文法を学ぶ必要性をより身近に，より深く感じ，実際のコミュニケーションで活用できるような文法指導を行っていただきたい。

―引用・参考文献―

*1) 田中武夫・田中知聡『英語教師のための文法指導デザイン』2014年, 大修館書店
○　文部科学省『高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編』平成22年５月